

を同定した。組織所見, 下腿前面より切除, 小水疱は角層内にあり, 表皮軽度浮腫性, 真皮上層, 浮頭層の血管周囲に組織球性細胞浸潤軽度あり。治療は, チンク油硼酸亜鉛華軟膏, クロマイ 250 mg/日にて5日目には水疱ほとんど消滅したが, 39°C 発熱と咳嗽をきたしマイシリン 20 万/日に変更, 第12病日に全治退院した。

9. La forme complète de Pachydermopériostose Syndrome de TOURAINE-SOLENTE-GOLÉ

加藤友衛

Pachydermopériostose は1962年までに海外文献で80例が記載されているが, この完全型は, 英語文献に限ってみると1966まで6例にすぎないまれなものである。

症例 (67-2983) 21歳男子で, 家族歴に同症なく, 脳回転状頭皮, バチ指, 骨膜性の骨新生の3症状を完備しており, 組織学的には脂腺の増多・増大, ヒアルロン酸の沈着をみとめた。諸検査にて, 一次的病巣所見なく典型的な特発性の Pachydermopériostose の完全型であった。

10. Multiple Trichoepithelioma

田辺義次

38歳男子。家族に同症なし。現病歴: 6年前から鼻翼周囲に紅斑丘疹性変化あり。現症, 鼻背, 鼻翼から鼻入口にかけて粟粒大~米粒大の正常皮膚色あるいは多小赤味を帯びた丘疹性変化ないし小腫瘤が集簇して存在する。特に鼻唇溝部では, 互に融合して地図状隆起をなしている。皮膚生検所見: 表皮には病的所見なし。変化の主体は真皮にあって, 種々の形態をとった細胞集塊が見られ, 互に真皮結合織で明確に境界されている。そのあるものは, 分岐した腫瘍塊を形成している。構成細胞は主として basaloid cell からなり, 配列を見ると, solid massive な部分と palisading な部分とが混在している。また, basalioma の adenoid type を思わず, レース編み様の配列をしているところもある。あるいは, 典型的な horn cyst を形成しているものもある。以上, 臨

床, 組織学的事項により, multiple trichoepithelioma と診断した。

11. SENEAR-USHER Syndrom

副島訓子 (厚生中央病院)

症例, 32歳男性。既婚, 電気技師。家族歴: 特記する事はない。既往歴: 右脛骨々髄炎, 虫垂炎。現病歴ならびに現症: 約三カ月前より軀幹中央にかゆみを伴う水疱を生じ放置して薄褐色の痂皮を伴う紅斑, 糜爛面を作った。以後漸次増加, 一カ月前より顔面, 耳介, 頭部に脂漏性の厚い, 黄褐色痂皮, 鱗屑を伴う紅斑を生ずる。皮膚萎縮は認めない。

検査成績: ニコルスキー現象陽性, ヨードカリ反応陽性, ソーンテスト, -20.3%。

組織所見: 軽度アカントーシス, 表皮内水疱, アカントリーゼ, 真皮の脂腺, 小血管周囲にリンパ球を主とする細胞浸潤。治療: 副皮剤に反応せず。ゲルマニンにより新疹発生なく一部は色素沈着を残して消退。

討 論

林: SENEAR-USHER としてはまだ不十分と考えている。KI は (+) であったが臨床的にはもはや水疱がない時期である。ZANK-test (-)。

岡本: あのくらいの Acantholyse は pemphigus にしかない。

12. WEBER-CHRISTIAN disease

川瀬健二

13. Syphilis congenita

斎藤恭一 (山形県立中央)

14. BOURNEVILLE-PRINGLE disease

斎藤恭一 (山形県立中央)

(以上3題抄録欠)